

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 豊かな心と健やかな体の育成

- (1) 子どもの安心・安全の確保
 - ア 新型コロナなど各種通知などをもとに、学習活動、学校行事、部活動その他学校生活の様々な場面において、引き続き感染症対策を継続して教育活動を行う。
 - イ 生徒一人ひとりの心身の状況把握をめざし、事象や課題の早期発見、早期対応に努め、保護者や専門家、関係機関と連携し教職員全体で支援する。
- (2) 学びの保障
 - ア カリキュラム・マネジメントの充実を図り、コロナ禍においても「主体的・対話的で深い学び」の実現に努め学校行事なども工夫する。
 - イ 臨時休業や不安から登校できない生徒への対応として ICT を活用するなど学習を支援するとともに学習状況把握を行う。
- (3) 人権・多様性を尊重する教育の推進（感染症に係わる人権問題も含む）
 - ア 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実
教育相談や支援教育体制を充実させ保護者や関係機関との連携を強化し貧困、虐待、ヤングケアラー等の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切に必要な支援-指導を行う。「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、いじめなどの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。
***** 学校教育自己診断（保護者）「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」(R2:51%,68%・R3:51%,65%・R4:50%,62%)を3年間で60%,70%以上にする**
- (4) 教職員の負担軽減（業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減 教職員の健康管理と意識改革）
 - ア 働き方改革をふくめ「全校一斉定時退庁日」の設定、グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」の促進や一人ひとりの意識改革を推進する。
***** 時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。**

2 確かな学力の定着と学びの深化 → 確かな学力の育成と授業改善

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。
 - ア 授業力向上PTを中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICTの効果的な活用」や「アクティブラーニング(AL)」をさらに発展させる。
 - イ 1人1台端末を効果的に活用し「生徒1人1台端末利活用プラン」に基づき計画的かつ組織的にこれまでの教育実践にICTを取り入れ学びの深化を図る。
 - ウ 観点別学習状況の評価、探究的な学びの充実、教科横断的な学び等を推進する。指導内容や方法、評価の見直しを図りPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。
***** 学校教育自己診断（生徒）「授業は分かりやすい」(R2:68%・R3:68%・R4:73%)を3年後には75%にする。**
- (2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。R4学校経営推進費（「本とのちから」～みなと図書Canにできること～）を活用する。
 - ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。
 - イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。
***** 検定の合格者を5Pずつ向上させ3年後には目標額の15P増をめざす。英検・漢検の準2級以上の合格者の増加(R4:24人→R5:30人→R6:35人)**
***** 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(R2:66%・R3:73%・R4:77%)を3年後には80%にする。**

3 将来をみすえた自主性・自立性の育成 → 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 進路指導の充実を図る。R4学校経営推進費（「本とのちから」～みなと図書Canにできること～）を活用。事業費約375万円、英語多読本や図書館備品など。
 - ア チャレンジ講習(毎週7限)を有効活用し進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。
 - イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100%をめざす。
 - ウ 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざし、第1希望進路達成率を向上する。
 - エ 教科指導と図書活動をつなげ、活性化させることで学力レベルの向上をめざす。
***** 公募推薦等受験、一般受験での合格率(のべ)を高める(R2:25%,25%・R3:30%,23.3%・R4:41%,35%)⇒3年後には45%,40%をめざす**
外部学力診断テストにおける国数英3教科の3年生時のC3以上の人数割合を3年後には60%をめざす
- (2) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。
 - ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」大麻等の乱用防止や情報モラルの育成に努め、正しい知識の普及、啓発を図る。特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。
 - イ 基本的生活習慣の育成。欠席者数、遅刻者数の減少に取り組む。
***** 学校教育自己診断（保護者）「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあっている」(R2:70%,66%・R3:72%,65%・R4:76%,68%)を3年間で共に80%・70%にする。欠席者数・遅刻者数(R2:4218,2762・R3:3331,2473・R4:4699,2684)を3年間で2/3減させる。**
- (3) 「元氣な学校づくり」部活動・特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。
 - ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。合理的でかつ効率的・効果的な取組みをおこなう。
 - イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。
 - ウ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。
***** 部活動加入率(R2:48%・R3:42%・R4:43%)を3年間で60%にする。**
***** 学校教育自己診断（生徒）「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」(R2:75%,56%・R3:75%,65%・R4:79%,60%)を3年間で80%・70%に。**
- (4) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む
 - ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権3法、府人権関係3条例を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
 - イ 「グローバル社会に対応できる人材の育成」SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえた様々な能力を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成、4技能を含めた実践的な英語運用能力の育成をはかる。国際交流等により文化や習慣の違いを尊重する精神を育む。

4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり → 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「将来構想会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。
 - ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。
***** 学校教育自己診断（教員）「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」(R2:46%・R3:42%・R4:38%)を3年間で55%とする。**
- (2) 「頼りにされる校務力」の育成(新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る)「学び続ける教職員」(ICT活用指導力の向上に取り組む教職員)の育成
経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、ミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実。中堅・ベテラン教員が若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)・・・組織的継続的な人材育成、ミドルリーダー・次代の管理職を系統的に育成、ハラスメントに対する認識の深化・相談体制の構築
- (3) 広報活動と地域連携の充実(学校経営推進費の有効活用)
 - ア ホームページの適時更新などできるだけ効果的な情報発信に努める。コロナ禍の中での学校説明会や中学校訪問などを工夫し、広報活動を活発にする。
 - イ 広報活動を様々な展開し、国際交流や図書活動などを通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。
***** 学校教育自己診断（保護者）「港高校のHPをよく閲覧する」(R2:47%・R3:46%・R4:39%)を3年間で55%とする。**

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年2月実施分]					学校運営協議会からの意見						
	全学年(数)	R5 回答率	R4 回答率	R3 回答率							
生徒	635	90%	88%	94%	◎第1回学校運営協議会(5月19日実施)						
保護者	523	68%	68%	75%	① 教務部						
教職員	43	88%	71%	77%	・3学年とも新学習指導要領の実施となる。引き続きコロナやインフルエンザへの対応により授業日数の確保、観点別評価への対応。						
◎実施方法は昨年同様に、生徒向けはグーグルクラスルーム(クロムブックを使用)、保護者・教職員にはさくら連絡網のアンケート機能をそれぞれ活用した。					② 生徒部						
◎回収率は横ばいか昨年より上がっている。生徒アンケートについては昨年と同様にLHRを利用しての実施であったが、実施日当日の欠席者が多かったことが理由と考えられる					・ベル着、身だしなみ、遅刻・欠席指導、あいさつ運動の継続。(生徒指導)						
◎保護者向けは、実施方法の変更などはなかったが、2年連続で回収率が7割を切っている。特に不満を感じていない保護者が、一定手間のかかる回答作業を避けている可能性もある。					・合同部活動の実施 ・部活動の加入率の減少が課題。(自治会)						
◎教職員向けの回収率が上がったが100%でなければならないと考える。					・学校行事はほぼコロナ禍前と同じ形態で実施予定。(自治会)						
◎生徒・保護者・教職員の肯定的回答が昨年度よりアップしている項目が多く、教育活動に対して一定の評価が得られている。					・校内学習環境の整備と防災教育の充実。(保健)						
◎集計結果については、生徒・保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析とともに配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図っていききたい。更に学校HPに結果をアップし、地域や関係者にも伝える予定である。					③ 進路指導部						
●生徒アンケート					・76期(3年)の希望進路の実現をめざす。(大学55% 短大4% 専門34%)						
【肯定的意見が多い項目】					R5	R4	R3	R2	・指導体制を維持して、進路実現をさらにすすめていく。		
E「先生はプリント学習やICTの活用など教え方にさまざまな工夫をしている」					92%	86%	86%	87%	④ 総務部		
J「将来の進路や生き方について考える機会がある」					91%	86%	83%	82%	・引き続き、奨学金の案内、PTA活動の活性化、広報活動の充実。		
O「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている」					88%	87%	85%	82%	⑤ 各学年より		
17項目のうち10項目で肯定的意見が80%を超えており、特にこの4年間は高い肯定率となっている。分掌や教科を中心に改善に取り組んできた成果であろう。					・マナー・モラル指導の継続 ・継続的な生徒指導 ・進路実現に向けた指導の強化						
【伸び率の高い項目】					R5	R4	R3	R2	⑥ 人権教育推進委員会		
C「授業はわかりやすい。」					77%	73%	68%	68%	・1、2年生対象「SNSやスマホに潜む危険から身を守る方法」4月に実施済。		
E「教え方に様々な工夫をしている」					92%	86%	86%	87%	・他者との関係性の構築、教職員人権研修10月開催の予定。		
K「学校では清掃活動はきちんと行われている」					84%	75%	66%	69%	【意見】		
L「健康や安全、防災等について考える機会がある」					88%	69%	60%	64%	・随分と遅刻件数が減っている。先生方の頑張りのおかげ。生徒の交通マナーがここ数年で良くなった。		
N「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」					89%	83%	72%	72%	・アンケートなどはフォーム作成ツールを活用。ソフト面の充実が追いつかないと先生方は大変すぎる。		
O「先生はいじめについて自分たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」					88%	58%	54%	63%	・校務のデジタル化の効果は？		
E「授業の工夫」、L:健康安全、N:人権教育、O:いじめ対応についての伸び率が高い。それぞれの教育活動が生徒に伝わってきたと思われる。					・働き方改革が必要であるが、やりすぎると教育が成り立たない側面もある。						
【肯定的意見が少ない項目】					R5	R4	R3	R2	【協議】		
B「港高校の生徒であることに誇りを持っている」					65%	60%	65%	56%	○ 令和5年度学校経営計画について		
Bは昨年度より5ポイントアップしているが、80%には近づきたい。					○ スクールポリシーについて						
●保護者アンケート					・5年程度は十分に耐えることのできる普遍的な内容 ・10月の協議会で案を提出予定						
【肯定的意見が多い項目】					R5	R4	R3	R2	◎第2回学校運営協議会(11月15日実施)		
J「学校を訪れた時、清掃活動はきちんと行われている」					85%	86%	83%	80%	① 教務部		
O「体育祭、文化祭などの学校行事では、子どもは楽しそうにしている」					90%	90%	84%	86%	・インフルエンザによる学級閉鎖が発生。2学期終業式を授業日に変更。		
Q「学校は、家庭への連絡や情報発信を積極的に行っている」					84%	89%	87%	69%	・授業配信の数は少なくなっている。		
O…もう少し、前もっての配信をすること、HPの更新などが原因と考えられる。					・観点別評価はアンケートを実施し評価検討中。						
Q…さくら連絡網での文書の電子配付は定着してきた。					② 生徒部						
【生徒・保護者間で差のある項目】					生徒	保護者					
「授業はわかりやすい」					77%	51%					
「将来の進路や職業について」					91%	74%					
【肯定的意見が少ない項目】					R5	R4	R3	R2	・改善傾向ではあるが、現時点で遅刻は前年度比10%増。		
C「港高校のHP(ホームページ)を閲覧することがある」					37%	39%	46%	47%	・欠席の増加、前年度比20%増。		
K「子どもの心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている(または相談したことがある)」					45%	50%	56%	40%	・休むハードルがコロナ禍以降低くなっている。		
C…HPの更新頻度を上げることと同時にSNS等の活用も時代的には必要					・担任をはじめとする先生方のサポートを継続していきたい。						
K…教育相談について、保護者への案内・情報発信を増やす必要がある。					・コロナ以前の行事体制に戻しつつ、状況もコロナ以前に戻る方向で推移(自治会)。						
●教職員アンケート					・健康診断等は無事終了した。治療報告書の提出率が低い(保健)。						
【肯定的意見が多い項目】					R5	R4	R3	R2	・保健室の来室数増加(夏休み明けのためか?) (保健)。		
D「生徒の個人情報適切に管理されている」					93%	90%	88%	83%	・11月に津波対応の避難訓練を実施予定。教職員の共有認識を深めていく(保健)。		
E「本校の生徒は、学校生活を楽しんでいる」					88%	86%	92%	87%	③ 教育相談委員会		
S「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる」					91%	86%	96%	83%	・週1回のペースで実施、学校全体での情報共有の視点で実施。		
【伸び率の高い項目】					R5	R4	R3	R2	・SCが月1回1回来校、アドバイスを受け助かっている。		
2					・SSWにも同等数来校してもらい、3年生の受験指導などでも助けられている。						
G「教員間で指導法について検討する機会」					77%	61%	65%	77%	④ 進路指導部		
H「生徒の意欲状況に応じた内容の精選・評価の工夫」					86%	73%	79%	83%	・公募制推薦入試始まる。希望者が例年より少ない。一般入試チャレンジが増えている。		
J「学校は1人1台端末を効果的に活用している」					71%	39%				・今年はチャンスがあると思っている。	
(J:R4年度からの追加項目)					・2年生の模擬試験申込者が在籍の6割になっている。						
観点別評価の検証やICT活用、パフォーマンス課題の実施等の影響が大きいのと思われる。					⑤ 総務部						
Q「清掃は生徒と共に実施し、担当の清掃区域は常にきれいに保てている」					67%	45%	54%	68%	・図書活動に力を入れるため、各学年フロアに移動図書館を設置した。		
【肯定的意見が少ない項目】					R5	R4	R3	R2	・PTA活動では体育祭での飲料の提供を復活。生徒にも好評であった。		
2					・広報活動としては、例年よりも学校説明会の参加人数が昨年度よりも増加している。						
Q:図書館業務のうち、SNSの発信は?					⑥ 3学年						
A:先生が担当しています。生徒は図書便り等を通じてお薦めの本の紹介などを行っている。					・指定校推薦の希望者減少傾向は、公募推薦や一般入試へのチャレンジする生徒が増えたため。						
Q:教室に入れない生徒や、うろろしているような生徒はいませんか?					・就職希望者は全員内定。						
A:そのような生徒はいません。					・ここからの踏ん張りをしっかり指導していく。						
【協議】					【意見・質問】						
○ 令和6年度私用の教科書採択について【意見】ありませんでした。					Q:図書館業務のうち、SNSの発信は?						
○ スクールポリシーの承認について					A:先生が担当しています。生徒は図書便り等を通じてお薦めの本の紹介などを行っている。						
・原案提示とスクールポリシーについての説明。					Q:教室に入れない生徒や、うろろしているような生徒はいませんか?						
Q:パフォーマンス課題とは?					A:そのような生徒はいません。						
A:授業において得た知識をそのように活用できるか?という視点で現実の課題等に向き合い、課題解決に向かうことで学んだ内容を深める学習になります。					【協議】						
Q:課題解決型の学習では、個人差もあり実践となると難しくなりますよね?					○ 令和6年度私用の教科書採択について【意見】ありませんでした。						
					○ スクールポリシーの承認について						
					・原案提示とスクールポリシーについての説明。						
					Q:パフォーマンス課題とは?						
					A:授業において得た知識をそのように活用できるか?という視点で現実の課題等に向き合い、課題解決に向かうことで学んだ内容を深める学習になります。						
					Q:課題解決型の学習では、個人差もあり実践となると難しくなりますよね?						

府立港高等学校

Z「学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」
53% 38% 42% 46%

AB「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」
49% 40% 45% 46%

J・・・今後、授業での活用をもっと増やさないといけない。
Q・・・クラス数、教職員数ともに減少しており、清掃分担のさらなる見直しや清掃方法指導について見直しの必要があるかもしれない。
Z、ABについては以前から肯定的意見が少ない。X「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」や、Y「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」とのバランスをとりつつ、肯定率を上げる取り組み・工夫が必要である。

A:教材開発や研究に時間がどうしても割かれる部分があり、働き方改革に反するケースも出ています。個別最適化を図る必要もあり、どうしても時間とエネルギーをかけることになります。
Q:地域貢献や連携をどのように行われていますか？
A:生徒部（自治会）が部活動も含めて中心になって取り組んでくれています。ランニングパトロールやあいさつ運動などに取り組んでいってくれています。
○今年度の状況や見えてきた課題
・募集定員が40名増の7クラスとなった。
・校務運営の効率化ということで、各業務等のデジタル化を府全体で進めることになったが、スケジュール管理はもう少しすすめたい。
また、働き方改革の関係で勤務時間外の電話は留守番電話対応になっている。欠席遅刻連絡もさくら連絡網を活用しているが、デメリットとなる面もある。
・今後府立高校は新しいプロジェクター導入予定。大変見やすく、授業活用が進むと思われる。

○ 令和5年度使用教科書の採択結果について【意見】なし

◎第3回学校運営協議会（2月10日実施）

○進捗状況について

①教務部

・インフルエンザの流行により学年閉鎖が発生。授業日数の確保に少し苦労した。観点別評価については教科を超えてノウハウを共有し、さらに探究的な学びとなるよう連携を深めたい。業務マニュアルの完成を進めたい。

②生徒指導

・遅刻、欠席はやや増加した。毎朝の登校指導（兼あいさつ運動）に参加していただく先生が増えた。

③自治会

・合同部活動はできる範囲で実施を進めているが、取りまとめや調整、教育庁への報告が増え、逆に業務は増えている部分がある。上手くいっている部分とそうでない部分もありまだまだこれから課題はある。1年生の部活動定着率は54%。

④保健・教育相談

・来室生徒はかなり増加した。校内美化についてはもう少し強化していきたい。来年度は避難訓練についてより実践的な訓練に改良していく予定。
・教育相談について、来年度は早い時期に教員研修を実施予定。
・主担者は保健室常駐にした分、連携は上手くできたが、相談対応の時間が大幅に増え、授業準備が追いつかない状況が生まれた。来年度もSCやSSWとの連携を密にとる。もう少し保護者の方にも情報提供していく。

⑤進路指導部

・一般入試まで頑張っている生徒の増加。後期まで頑張る生徒のケア・指導を3年生の学年にお願いしているところ。来年度は総合的な探究で新たな取り組みを始めるため、進路関係の指導や行事の調整をしている。
・英検（1次）結果 3級一次通過率 60%、準2級一次通過率 11% 2級一次通過率 10%

⑥総務部

・SNSを活用した新着図書発信。移動図書館の設置、図書館前のスペースの有効活用ができています。在学奨学金案内をし、無事に採用された生徒もいる。PTA 社会見学や広報活動を行った。HPの更新回数や学校説明会参加人数は昨年度を上回っている。

⑦学年

・進路関係の情報収集・ガイダンスのかなりエネルギーを注いできた。教員の学年団としてのまとまりが取れていることが生徒にも好影響を与えていると考えている。各業務の高度化のためには、専門性を高めることが必要。
・どの学年もコロナよりもインフルエンザに対する対応に追われた。

【協議・意見】

Q:教育相談だよりではどんな内容で出していますか？

A:その時々状況や様子、長期休暇の前後などから、内容を決めています。

Q:生徒に意思表示できる札を用意したというのはどんな感じのことをされていたのですか？

A:生徒相談室を昨年度まで毎日お昼休みの時間帯にオープンにしていたが、今年度は授業等の関係でその対応が難しいので、相談室の前に掲示板的なものを設置しました。

○ 令和6年度学校経営計画について

・授業でのICT活用が92%となっている、素晴らしいことだと思う。驚いた。
授業でスマホを活用していることは大変面白いと思う。理解度の確認等利用価値は高いと考えるが、マナー指導をしながら、自己管理の指導が大変だと思うが、自主的にセーブできるようにできないだろうか？授業というのが最大の生徒指導。何か良い方法はないだろうか？
・大学でも、教材はデジタルデータの配付になっていて、教材を見ているのか？ゲームをしているのか？見えないうことも起こる。特に人数の多い授業では、なかなか難しいものがある。
・私立専願が多くなっている。高校に学びに行くという姿勢の子が減ってきている。
・やりたいことと、現状条件がなかなか難しいという部分はあるということがよく分かった。その中で出来ることに頑張っていたきたい。
・「教えて先輩」を実施することになれば、先生方の負担にならないような中でお手伝いしたい。
・時代の変化、少子化は学校というところに大きな影響を与えている。学びの質の変化・時代の変化の中で色々大変だと思うが、健康に注意して頑張っていたきたい。
・経営計画の作成だけでも大変だとは思いますが、毎年きちんと検証されていて、現状に対する方策が細かく考えられていて、本当に良い取り組みだと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p>1 豊かな心と健やかな体の育成</p>	<p>(1) 子どもの安心・安全の確保 ア 新型コロナなど各種通知などをもとに、学習活動、学校行事、部活動その他学校生活の様々な場面において、引き続き感染症対策を継続して教育活動を行う。</p>	<p>(1) ア ・新型コロナウイルス感染症の現状の分析と各種通知や対応の情報共有を徹底する。</p>	<p>(1) ア.イ 「学校生活で、生徒の体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている。」 [84%] ⇒ 85% 「健康や安全等について考える機会がある。」 [69%] ⇒ 70% ・アレルギー対策委員会の定期的実施 [3回] ⇒ 4回</p>	<p>(1) 「学校生活で、生徒の体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている。」 [84%] ⇒ 84% (○) 保健室の体制が取りにくい状況の中、昨年度の数値はキープできている 「健康や安全等について考える機会がある。」 [69%] ⇒ 88% (◎) ・アレルギー対策委員会の定期的実施[3回] ⇒ 4回 (○)</p>
	<p>イ 生徒一人ひとりの心身の状況把握をめざし、事象や課題の早期発見、早期対応に努め、保護者や専門家、関係機関と連携し教職員全体で支援する。</p>	<p>イ ・生徒の健康把握や体調管理について、新型コロナウイルス感染症の発症や発熱者などの情報管理やその対応についての校内の組織的対応手順を構築する。保健室・学年・教頭の連携の強化。 ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切に必要な支援-指導を行う ・アレルギー対策委員会の定期的実施により生徒の基本的な情報を共有する。</p>	<p>(2) ア 年間行事予定の行事を行う 年間行事予定の授業日数を確保する [確保] イ オンライン配信授業率 [100%] ⇒ 100%</p>	<p>ア 年間行事予定の行事を行う 年間行事予定の授業日数を確保する→[確保できている] (○) イ オンライン配信授業率 [100%] ⇒ 100% (○)</p>
	<p>(2) 学びの保障 ア カリキュラム・マネジメントの充実を図り、コロナ禍においても「主体的・対話的で深い学び」の実現に努め学校行事なども工夫する。</p> <p>イ 臨時休業や不安から登校できない生徒への対応としてICTを活用するなど学習を支援するとともに学習状況把握を行う。</p>	<p>(2) ア ・コロナ禍の中でも生徒の人間形成に影響を及ぼす学校行事について感染症対策を検討し可能な限り実施運営する。 ・学校休業や学年・学級閉鎖に伴う授業日数や授業コマ数の確保に努める。</p> <p>イ ・臨時休業や不安から登校できない生徒への対応としての ICT を活用した組織的な学習支援体制を深化継続させ、実施状況の把握コントロールに努める。</p>	<p>(3) ア ・教育相談委員会開催回数 [23回] ⇒ 24回 ・修学支援会議(ケース会議+個別検討会議)開催回数 [10回] ⇒ 12回 ・SSW の活用[12回] ⇒ 14回 ・SC の活用 [17回] ⇒ 18回</p> <p>「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる。」 [86%] ⇒ 90% 「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。」 [69%] ⇒ 75%</p>	<p>ア ・教育相談委員会開催回数 [23回] ⇒ 20回 (○) ・修学支援会議(ケース会議+個別検討会議)開催回数 [10回] ⇒ 10回 (○) ・SSW の活用[12回] ⇒ 12回 (○) ・SC の活用 [17回] ⇒ 17回 (○) いずれも臨時や緊急性の高い案件はなく定例の回数で問題がなかった。必要に応じた対応はできている 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる。」 [86%] ⇒ 91% (○) 「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。」 [69%] ⇒ 77% (○)</p>
	<p>(3) 人権・多様性を尊重する教育の推進(感染症に係わる人権問題も含む) ア 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実</p> <p>(4) 教職員の負担軽減(業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減教職員の健康管理と意識改革) ア 働き方改革をふくめ「全校一斉定時退庁日」の設定、グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」の促進や一人ひとりの意識改革を推進する。</p>	<p>(3) ア ・教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切かつ必要な支援・指導を行う。 ・SC・SSW や支援教育コーデや学校生活支援カードを有効に活用。SC・SSW の有効活用。 ・教育相談会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。 ・「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、感染症に係わる人権問題やいじめなどの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。</p> <p>(4) 時間外労働縮減に向けた取組みの促進、在校時間等管理及び健康管理を徹底。 ア ・全校一斉定時退庁日、ノー残業デー、ノークラブデーの徹底。 ・校務運営の効率化」の促進 ・業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減、教職員の健康管理と意識改革 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。</p>	<p>(4) ア 時間外労働時間を10%削減 [R4:80時間以上 のべ36人 100時間以上 のべ13人 総残業時間 22429時間 月平均 1869時間 1人あたり月平均 37.4時間] をR5には以下のようにする。 (R5:80時間以上 のべ30人 100時間以上 のべ10人 総残業時間 20000時間 月平均 1680時間 1人あたり月平均 33時間 *すべてにおいて1割減を目標 月残業45時間/年残業360時間 以内を目標数値に置く ・労働安全衛生委員会実施回数 [12回] ⇒ 12回</p>	<p>ア 1月終了時点 (R5:80時間以上 のべ30人 100時間以上 のべ16人 総残業時間 18691時間 月平均 1889時間 1人あたり月平均 38.8時間 (△) コロナ禍の制限がなくなり、部活動が活発になった分が増加していると思われる ・労働安全衛生委員会実施回数 [12回] ⇒ 12回 (○) 対象となる教諭の産業医面談については全員行っている。部活動の効率化や負担分担の割振りなど、対応策を考えていく必要がある。</p>

府立港高等学校

<p>2 確かな学力の定着と学びの深化</p>	<p>(1) 社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>ア 授業力向上PTを中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICTの効果的な活用」や「アクティブラーニング(AL)」をさらに発展させる。</p> <p>イ 1人1台端末を効果的に活用し「生徒1人1台端末活用プラン」に基づき計画的かつ組織的にこれまでの教育実践にICTを取り入れ学びの深化を図る。</p> <p>ウ 観点別学習状況の評価、探究的な学びの充実、教科横断的な学び等を推進する。指導内容や方法、評価の見直しを図りPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。R4学校経営推進費(「本とのちから」～みなと図書Canにできること～)を活用する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取り組みを推進する。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善。 ・全教員による相互授業見学をさらに発展。 ・授業改善のための校内研修の実施。 ・授業アンケート後の振り返りを行い、それを活用した授業改善の取り組みを推進。 ・ALやICTの効果的な活用をした授業を行う教員の割合を増加。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用研修の実施。 ・ギガスクール構想の中で何ができるかを教え合う校内研修の実施 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で評価の仕組みを検証し観点別評価を確立する。 ・各教科で指導と評価の年間計画。(シラバス)を検証 ・各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り適切な授業改善に取り組む。 <p>(2) 全員が英検、漢検の何れかの級または両方取得する。年次進行で、3年間のデザインを確立する。進路部主導、教科・学年が主体 R4学校経営推進費で準備した英語多読速読教材を用いた授業展開を考察し試行する。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や7限講習を利用した各検定に向けた学習形態の深化。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなどを用い、主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開を増加。 ・他校との授業交流。 ・クラス数減等で固定して確保できる教室や会議室を有効利用。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」[51%]⇒60% ・「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」[61%]⇒70% ・「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」[55%]⇒60% <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」[80%]⇒85% ・1人1台端末の導入のための授業づくり研修の実施。[2回]⇒2回 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における観点別評価の確立と連動したシラバスの完成。 ・「評価を行い次年度の計画に活かしている」[51%]⇒55% ・「検討する機会を積極的にもっている」[61%]⇒65% ・「指導法について取り組んでいる」[55%]⇒60% <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者数 英検2級と準2級の合格者数25名とする。[準2級以上22名合格] 漢検2級、準2級合格者数25名とする。[前年希望者受検] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[77%]⇒80% ・他校授業観察5校実施[4校] ・「授業は分かりやすい」[73%]⇒75% ・「教え方に工夫をしている」[86%]⇒90% 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」[51%]⇒79% (◎) ・「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」[61%]⇒77% (◎) ・「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」[55%]⇒60% (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」[80%]⇒72% (△) 使用する先生は90%以上となったが「効率的」という部分ではやや物足りない ・1人1台端末の導入のための授業づくり研修の実施。[2回]⇒2回 (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題の内容・評価の確認を行った。評価とシラバスについて再検討し確認を行った(○) ・「評価を行い次年度の計画に活かしている」[51%]⇒79% (○) ・「検討する機会を積極的にもっている」[61%]⇒77% (○) ・「指導法について取り組んでいる」[55%]⇒60% (○) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格者数 英検2級と準2級の合格者数[準2級以上合格] 22名⇒20名 (△) 漢検2級、準2級合格者数10名 (△) 検定試験への取り組みを強化する必要がある <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[77%]⇒83% (○) ・他校授業観察5校実施[4校]⇒[4校] (△) 学校行事等の関係もあり、昨年度と同数に留まった ・「授業は分かりやすい」[73%]⇒77% (○) ・「教え方に工夫をしている」[86%]⇒92% (○)
-----------------------------	--	---	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 将来をみすえた自主性・自立性の育成</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。R4 学校経営推進費(「本とのちから」～ みなと図書 Can にできること～)を活用する。</p> <p>ア チャレンジ講習(毎週7限)を有効活用し進学希望者等に対する指導進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。</p> <p>イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率 100%をめざす。</p>	<p>(1) 大学進学全国平均 56.6%、本校1年4月時の進学希望者 80%超の実態の中、生徒の自己実現支援を本気で考える。 R4 学校経営推進費で準備した書籍などを使い図書室を利用した授業や総合的な探究の時間を利用して自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざす。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ講習の5クール・1学期間・1年間の計画を進路が作成し、教科が協力して実施。(進路部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために進学主担者がイニシアチブをとる) ・自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用にも取り組む。(1年次から進学講習を実施)進路・学年・教科の密なる連携。(進学主担者がイニシアチブをとる) ・自習室の使用計画と運営。(学年主任・学年進路) ・勉強合宿の企画や大学見学や大学施設での自習や講習会の企画。(進路主担・学年主任・学年進路) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習(探究)の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る。(活躍する卒業生や大人への聞き取りの企画・実施) ・同窓会との連携。生徒就労意識を育成。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施。 ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し進路の各係が運営実施。 	<p>(1)</p> <p>ア 講習などの実施頻度 1-2年生…英数国などを年間各20回以上[10~20回] 3年生…英数国理など各講座を30~40回以上[20~40回] 長期休業中講習 1-2年生…英数国理など各講座5回程度[5回] 3年生…英数国理15回以上[15回~30回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取組みの発信と継続 [5項目] ⇒ 5項目 ・4年制大学への進学者 [56%] ⇒ 60%に ・4年制大学・短大への進学者 [64%] ⇒ 68%に ・公募推薦等受験[30%受験で合格率41%]、一般受験[26%受験で合格率35%]の受験率と合格率を高める⇒公募推薦等受験での合格率(45%) 一般受験での合格率(35%以上) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率 [100%] ⇒ 100%に ・学校斡旋就職決定率 [100%] ⇒ 100%に ・インターンシップ人数 [コロナで11人]⇒ 30人 ・応募前職場見学参加人数 [5人] ⇒ 20人 ・就職講座実施回数 [30回] ⇒ 20回 	<p>(1)</p> <p>ア 講習などの実施頻度 1-2年生…英数国などを年間各20回以上[10~20回] 1、2年12回(△) 3年生…英数国理など各講座を30~40回以上[20~40回] 3年50回(○) 長期休業中講習 1-2年生…英数国理など各講座5回程度[5回] 1、2年各5回(○) 3年生…英数国理15回以上[15回~30回]3年25回(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取組みの発信と継続 [5項目] ⇒ 5項目(○) ・4年制大学への進学者 [56%] ⇒ 47%(△) ・4年制大学・短大への進学者 [64%] ⇒ 53%(△) ・公募推薦等受験[30%受験で合格率41%]、一般受験[26%受験で合格率35%]の受験率と合格率を高める⇒公募推薦等受験30%、合格率(37%)、一般受験25%受験、合格率30%(△) 一般入試まで頑張る生徒がここ数年増えたがもう一歩踏み込んだ指導が必要 イ：就職希望者6名 ・1次就職試験決定率 [100%]⇒83%(5/6)(○) 100%とはならなかったが、生徒は非常によく頑張って準備しており、2次では合格している。 ・学校斡旋就職決定率 [100%]⇒100%(○) ・インターンシップ人数 [コロナで11人]⇒のべ30人(○) ・応募前職場見学参加人数 [5人]⇒30人(○) ・就職講座実施回数 [30回]⇒20回(○) <p>就職希望生徒に1人につき5社考えさせるように指導している</p>
--	---	---	---	--

府立港高等学校

<p>3 将来をみすえた自主性・自立性の育成</p>	<p>ウ 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざし、第1希望進路達成率を向上する。</p> <p>エ 教科指導と図書活動をつなげ、活性化させることで学力レベルの向上をめざす。</p> <p>(2) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入。 ・3年間の進路指導マップを全学年で共有し活用。(合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用) ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を利用した授業を展開する。 ・課題学習の中で図書室を利用した課題を展開する。 ・総合的な探究の時間などで、キャリア学習を中心に調べ学習を行う。 <p>(2) 厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進し、ルール・マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未決定者や専門学校進学割合を減少させ4年制短大進学を増加させる。 その他 [6%] -2%に 専門学校進学 [29%] -5%に 4短大進学 [64%] +4%に <p>エ</p> <p>外部学力診断テストにおける国数英3教科の3年生時のC3以上の人数割合を45%以上とし、3年後には60%をめざす。 [36%] ⇒45%に</p> <p>(2) 保護者「生徒指導の方針には共感できる」 [76%] ⇒80%</p> <p>生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」 [68%] ⇒70%</p>	<p>ウ</p> <p>その他 [6%] ⇒4%</p> <p>専門学校進学 [29%] ⇒37%</p> <p>4短大進学 [64%] ⇒53%</p> <p>(△)今年度の3年生は4月当初の4大進学希望者が55%で昨年度比-6%、さらに進路希望の変更により4短大の数値が下がった。</p> <p>エ</p> <p>外部学力診断テストにおける国数英3教科の3年生時のC3以上の人数割合を45%以上とし、3年後には60%をめざす。 [36%] ⇒54% (◎)</p> <p>(3年4月時点)</p> <p>(2) 保護者「生徒指導の方針には共感できる」 [76%] ⇒70% (△)</p> <p>「分からない」が17%もあり、取り組みへの理解をいただける様、発信が必要と思われる。</p> <p>生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」 [68%] ⇒83% (◎)</p>
	<p>ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」大麻等の乱用防止や情報モラルの育成に努め、正しい知識の普及、啓発を図る。</p> <p>イ 基本的な生活習慣の育成。欠席者数、遅刻者数の減少に取り組む。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画し、学年通信で注意喚起。 ・情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ・生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(遅刻欠席への家庭連絡の強化)。 ・担任・学年生指の指導が主体。この部分で指導数を食い止める。生指部本体では全体の指導方法を検討実施する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画し、学年通信で注意喚起。 ・情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ・生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(遅刻欠席への家庭連絡の強化)。 ・担任・学年生指の指導が主体。この部分で指導数を食い止める。生指部本体では全体の指導方法を検討実施する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画し、学年通信で注意喚起。 ・情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ・生徒が加害者にも被害者にもならないように取り組みを行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(遅刻欠席への家庭連絡の強化)。 ・担任・学年生指の指導が主体。この部分で指導数を食い止める。生指部本体では全体の指導方法を検討実施する。
	<p>(3) 「元気な学校づくり」部活動・特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。</p> <p>ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。合理的でかつ効率的・効果的な取り組みをおこなう。</p>	<p>(3) 必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観や関心を向ける。</p> <p>ア</p> <p>合理的でかつ効率的・効果的な取り組みをおこない生徒にとって魅力のある部活動運営に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施。 ・地域連携を強め、地元中学生との連携を強化。 ・部活動連絡会やリーダー講習など連帯感の醸成。 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫。 ・学校HPにおける部活動の情報発信機会を増やす。 	<p>(3) 必要の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観や関心を向ける。</p> <p>ア</p> <p>合理的でかつ効率的・効果的な取り組みをおこない生徒にとって魅力のある部活動運営に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施。 ・地域連携を強め、地元中学生との連携を強化。 ・部活動連絡会やリーダー講習など連帯感の醸成。 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫。 ・学校HPにおける部活動の情報発信機会を増やす。 	<p>(3) 必要の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観や関心を向ける。</p> <p>ア</p> <p>合理的でかつ効率的・効果的な取り組みをおこない生徒にとって魅力のある部活動運営に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施。 ・地域連携を強め、地元中学生との連携を強化。 ・部活動連絡会やリーダー講習など連帯感の醸成。 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫。 ・学校HPにおける部活動の情報発信機会を増やす。
	<p>イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。</p> <p>ウ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。</p> <p>(4) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p> <p>ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ</p> <p>人権3法、府人権関係3条例を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。</p> <p>イ 「グローバル社会に対応できる人材の育成」</p> <p>SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえた様々な能力を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成、4技能を含めた実践的な英語運用能力の育成をはかる。国際交流等により文化や習慣の違いを尊重する精神を育む。</p>	<p>イ</p> <p>生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への生徒の取り組みに工夫をし、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の清掃活動や大清掃の統括を保健Gが行い、特に行事前後や学校説明会などの清掃活動時には重点を置く。 ・清掃監督の徹底。 <p>(4)</p> <p>ア 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた人権教育マップの作成。 <p>イ 国際交流等により、文化や習慣の違いを尊重する心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流事業としてスタディーツアーに語学・異文化体験研修の趣旨をプラスする。 ・交流のPRや広報につとめ、参加者をさらに増やす。 ・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 ・大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、さらなる校内交流を検討する。 ・生徒の国際交流委員会を活発に機能させる。 ・国際理解教育や異文化理解に務め、多文化共生の心を育む。 	<p>イ</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 [79%] ⇒80%</p> <p>「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 [87%] ⇒90%</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「清掃活動はきちんと行われている」 [86%] ⇒90% ・生徒「清掃活動はきちんと行われている」 [75%] ⇒80% ・教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保っている清掃活動はきちんと行われている」 [45%] ⇒55% <p>(4)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 [83%] ⇒85%</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外交流参加者[0名] 5名 ・webでの海外交流[0名] 5名 ・国際交流委員会回数[1] 3回 ・校内交流会回数 [0] 1回 ・ツアー企画数 [0] 1回 ・交流参加生徒による報告会 [0] 1回 ・国際理解教育研修回数[3] 3回 <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールへの加盟 	<p>イ</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 [79%] ⇒75% (△)</p> <p>コロナ禍の空白が原因かもしれないが、集団での活動を苦手とする生徒は増えているかもしれない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 [87%] ⇒90% (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「清掃活動はきちんと行われている」 [86%] ⇒85% (△) ・生徒「清掃活動はきちんと行われている」 [75%] ⇒84% (○) ・教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保っている清掃活動はきちんと行われている」 [45%] ⇒67% (◎) <p>(4)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 [83%] ⇒89% (○)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外交流参加者[0名] 0名 ・webでの海外交流[0名] 0名 ・国際交流委員会回数[1] 2回 ・校内交流会回数 [0] 1回 ・ツアー企画数 [0] 0回 ・交流参加生徒による報告会 [0] 0回 (△) ・国際理解教育研修回数[3] 3回 (○) <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールへの加盟 出来ていない (△) <p>グローバル化については働き方改革とのバランスを考えて方針を見直す</p>

府立港高等学校

<p>4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり</p>	<p>(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「将来構想会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。</p> <p>ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。</p> <p>イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。</p> <p>(2) 「頼りにされる校務力」の育成(新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る)</p> <p>「学び続ける教職員」(ICT活用指導力の向上に取り組む教職員)の育成</p> <p>組織的継続的な人材育成、ミドルリーダー・次代の管理職を系統的に育成。</p> <p>ハラスメントに対する認識の深化・相談体制の構築</p> <p>(3) 広報活動と地域連携の充実(学校経営推進費の有効活用)</p> <p>ア ホームページの適時更新などできるだけ効果的な情報発信に努める。コロナ禍の中での学校説明会や中学校訪問などを工夫し、広報活動を活発にする。</p> <p>イ 広報活動を様々に展開し、国際交流や図書活動などを通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。</p>	<p>(1) 組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議を中心とした機動力のある組織運営。 ・分掌を中心とした学校運営を強化し、学年ごとのばらつきをなくし、同じ3年間の取り組みを実行することで3～5年後に検証できる学校運営体制を確立する。 <p>ア <u>クラス数減による教員定数の減員の中、プロパー・ヘルパー制という考え方や、担任団という考え方を廃止し分掌及び学年団中心の学校運営を行う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「担任だからできないとか、副担任だからやらない」を改める。 ・担任会を縮小し学年団会議を拡大、担任団から学年団へ考え方を移行する。(12人程度の集団) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員数の減少を見込み各分掌が校務の取り組み方を考察し少人数での効率的な校務運営に努める。 ・分掌・学年マネジメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、役割分担を考える。 <p>(2) 「学び続ける教職員」(ICT活用指導力の向上に取り組む教職員)の育成</p> <p>経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、ミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実。中堅・ベテラン教員が若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。</p> <p>校内研修とOJTの充実組織的継続的な人材育成、ハラスメントのない同僚性の高い職場環境の構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームによる初任者への研修や支援。 ・経験の浅い教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定。 ・経験の少ない教職員の意見交換の場の設定。 ・提案型の学校運営のための、意見提示ができる機会の設定 ・先進校視察や授業交流の実施。 <p>(3)</p> <p>ア コロナ禍の中での学校説明会や中学校訪問などを工夫し、広報活動をさらに活発にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルに伴い、新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実し効果的な情報発信に努める。<u>更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。</u>(教頭・首席により具体的な方策を考察し試行) ・中学校への出前授業の実施。 ・広報活動の充実・・・年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチ時期を学校説明会・合同説明会とともに考察。(総務部がイニシアチブ) ・広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を<u>総務部の分掌の仕事としマニュアルを作成。</u> ・<u>生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。</u> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域清掃活動の実施。</u> ・老人会などとの地域連携・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流や読み聞かせなどの読書交流のような新しい取り組みの実施。 ・挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校(他地元中学校)と連携した企画を実施。 ・学校経営推進費の活動で、国際交流や読書活動を用いて幼小中などの連携を図る。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議+コア会議開催回数 [25回] ⇒ 25回 ・学校教育自己診断(教員) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 [40%] ⇒ 45% 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 [51%] ⇒ 55% <p>ア 学年団会議の回数[12回] ⇒ 12回</p> <p>イ 学校教育自己診断(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 [38%] ⇒ 45% ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」 [69%] ⇒ 70% <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 [5回] ⇒ 5回 ・教職員研修の実施回数 [4回] ⇒ 4回 ・初任者校内研修 [23回] ⇒ 23回 ・先進校視察実施回数 [4校] ⇒ 4校 ・港高校を考える会・決める会の実施 [1回] ⇒ 2回 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[250回] ⇒ 300回 ・保護者「HPを閲覧することがある」 [39%] ⇒ 45% ・中学校への出前授業 [5回] ⇒ 5回 ・新規の広報企画数 [3企画] ⇒ 3企画 ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」 [73%] ⇒ 75% ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める(保護者) [68%] ⇒ 75% ・学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正(教職員・保護者・生徒の差を [86%・83%・79%で7%] ⇒ 5%) <p>イ 実施企画数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 [3回] ⇒ 5回 ・新企画を2～3企画行う ・地域連携活動 [0回] ⇒ 3回 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議+コア会議開催回数 [25回] ⇒ 21回(△) 行事等の関係で開催回数が減少した。 ・学校教育自己診断(教員) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 [40%] ⇒ 49%(○) 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 [51%] ⇒ 79%(◎) <p>ア 学年団会議の回数 [12回] ⇒ 12回(○)</p> <p>イ 学校教育自己診断(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 [38%] ⇒ 53%(○) ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」 [69%] ⇒ 81%(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 [5回] ⇒ 5回(○) ・教職員研修の実施回数 [4回] ⇒ 4回(○) ・初任者校内研修 [23回] ⇒ 17回(△) ・先進校視察実施回数 [4校] ⇒ 4校(○) ・港高校を考える会・決める会の実施 [1回] ⇒ 0回(△) 次年度は教職員研修、考える会を年間行事予定に組み込み、計画的に実施予定 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[250回] ⇒ 253回(△) ・保護者「HPを閲覧することがある」 [39%] ⇒ 37%(△) HPだけでなく既存のSNSの発信を増やしていく ・中学校への出前授業 [5回] ⇒ 5回(○) ・新規の広報企画数 [3企画] ⇒ 3企画(○) ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」 [73%] ⇒ 84%(○) ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める(保護者) [68%] ⇒ 68%(△) ・学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正(教職員・保護者・生徒の差を [86%・83%・79%で7%] ⇒ 88%・82%・75%で13%(△) 来年度の重点課題として捉えている <p>イ 実施企画数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 [3回] ⇒ 5回(○) ・新企画を2～3企画行う(△) ・地域連携活動 [0回] ⇒ 3回(○) 地域連携、読書連携等、取り組み切れなかったところはあるが、あいさつ運動、清掃活動を再開できた
---------------------------------	---	--	--	---